

子ども体験ペーロン



【福田小学校区コミュニティ連絡協議会】

地区の概要

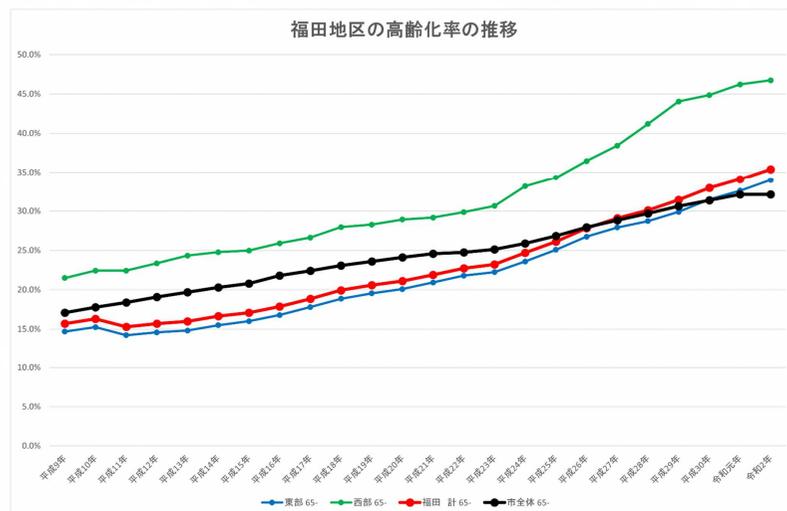
■人口構成(令和 6年9月時点住民基本台帳データ)

| 世帯数 | | 人口 | | | 合計 |
|------|--------|-------|--------|-------|------|
| | | 15歳未満 | 15~64歳 | 65歳以上 | |
| 3763 | 人数(人) | 757 | 3962 | 2870 | 7589 |
| | 構成率(%) | 10.0 | 52.2 | 37.8 | 100 |

■地域の特徴・課題など

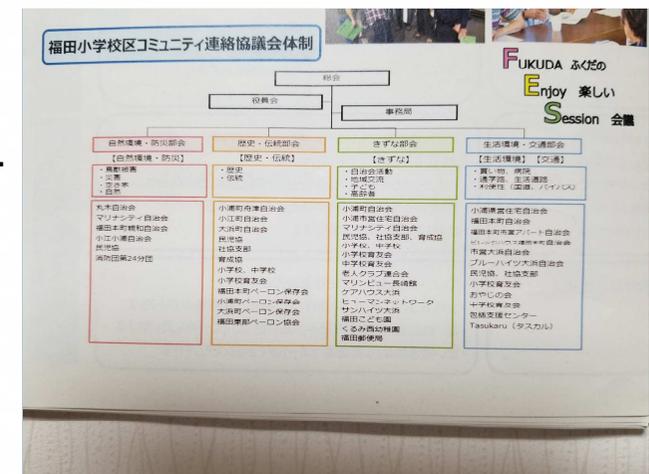
福田地区(東部)は海と山に囲まれた自然環境豊かな土地柄に、商業施設が立地する新興地区です。近年は65歳以上の人口比が37%を超え、伝統行事を運営する人が高齢化・固定化し、若い人の関心が低い。また自治会や子ども会への加入者が少なくなってきた、外に出ない高齢者が増えてきている。今後高齢者へのサポートが必要になって来ると思われる、また子ども達の放課後や休日の過ごし方が心配。

福田地区世代割合



協議会の紹介

- ・協議会の活動範囲 (福田小学校区)
- ・部会型 4部会制(自然環境・防災、歴史・伝統、きづな、生活環境・交通)
- ・加入団体 44団体・34役員
- ・拠点 大浜地区に一戸建ての拠点
- ・事務局 4名体制(事務局長・事務局次長・事務局員2名・広報1名)



協議会活動内容(一部抜粋)

・地域活動の活性化

○福田小学校区コミュニティ連絡協議会も、発足して7年目になりますが、コロナの影響により、活動が制限されていましたが、一昨年度より活動が本格化しており、それに伴い行事も変化しつつある。主な行事を紹介します。

- 1、自然環境・防災部会
福田を桜の町にしようプロジェクト(毎年、桜を植樹)・防災備品の購入など
 - 2、歴史・伝統部会
子どもたちの体験ペーロン実施・史跡の保全活動など
 - 3、きづな部会
夏祭り(夏越)・福田まつり花火大会・歌おう会など
 - 4、生活環境・交通部会
福田の公園にイルミネーション設置・門松の絵募集配布・バスの時刻変更陳情など
- その中の一部の活動を紹介します。



ぶっチャけトークの開催

・きっかけ

活動する若者がいない、自治会をやめる人が出てきた。子供会の解散や休止が増加している。このままだと自治会の解散や活動停止、行事の遂行ができなくなる。負のスパイラルがとまらなくなる。今どのような活動が求められているのか知りたい。

・目的

福田に住んでいる人たちが、何を望み、どのような事で悩み、どのようになればいいのか！一度福田を出ていった人たちが、「福田っていいところだ」住みよい町と言って戻ってくるには、どうしたらよいらうか？みんなの意見を聞かせ下さい。年代別に意見を聞いたらどうだろう。



子どもだけのぶっチャけワークショップ

・概要

令和7年9月21日(日)初めての試みで、子どもたちも小学生・中学生・高校生・大学生と募集をかけて、参加していただいた。

特に大学生は、ワークショップの各テーブルの運営を行ってもらい、子どもたちから意見を吸い出してもらった。

なかには、みんなの前ではなかなか話さない子どももいたが、大学生が上手に引き出させていた。

子どもたちも、みんなと意見を交わす中、次第に打ち解けて、スムーズに話すことができるようになっていった。

子どもたちから上がった声は、今度は大人が答える番です。



大人のぶっチャけワークショップ

・子どもたちの声を大人が考えてみよう

- ・令和7年11月12日(水)子どもたちから、意見があがったことに対して、大人がどうすれば子どもたちの声を反映できるか考える。討論する。
せっかく上がった声に対して、子どもたちに何らかの回答をして、子どもたちのやる気を起こさせ、将来は子どもたちだけで行える行事を考えていただきたい。



ペーロン競争

・きっかけ

ペーロンに乗る人が年々少なくなっている。ペーロン離れが急速に進んでいる。「何とかペーロン人口を増やされたいだろうか」と選手たちからの声が上がった。だったら他地区に声をかけて、一人でもペーロンに興味を持ってもらって、将来はペーロンに乗ってもらおうよ。他地区との交流をしよう「子ども体験ペーロン」なんてどうだろう！

・目的

他地区との交流により、ペーロンの面白さを知っていただき、楽しみながらペーロンに乗っていただくことを目的としながら。海側に住む子どもたちが今度は、陸地側の行事に参加したりして、お互いに交流を深め、各地域同士がつながり人手が足りなくて困っているところの加勢ができるようになるような活動をしたい。



9

子ども体験ペーロン

・他の地区より来ていただいた

- ・ 西城山地区・北陽地区・桜町地区他 総勢85名 地元30名 計115名の子どもたちがペーロン船4隻に乗り、陸地から審判の旗が振られると一斉に漕ぎ出した。最初はぎこちなかったが、要領を覚えると少し早く進むようになった。競争が終了すると陸地に戻り海で遊んでいた。感想を聞くと楽しかったの声が聞こえ、来年はもう少し競争意識を高め感動できるような体験ペーロンになるようにしていきたい。



10

福田をもっと盛り上げたい

・きっかけ

- ・ 昔は、「福田の盆踊りがあり花火も打ちあがっていたね」の会話から若者たちが、盆踊りもしたいね・花火も打ち上げたいよね・浴衣も着せたいよね！と話が盛り上がった、以前は育成協が主体で夏祭りをしていたのですが、コロナの影響もあり、また担い手不足により中止となってしまいました。

・目的

- ・ もう一度、盆踊りと花火を復活させて福田を盛り上げたい。福田には祭りがあるんだと、「子どもたちが思い出に残る祭りをしたい」若者が声を上げた。
- ・ 福田が住みよい街になるように、若者たちの声が反映できるように、地域コミュニティ連絡協議会がバックアップできる体制作りをする。(自由にしてもらう。)
- ・ 祭りなどで経験したことを生かして、最終的には若者が各自治会の運営にも参加できるようにしたい。



11

福田まつりを実施

若者で「まつり実行委員会」を設置

・ 第2回夏越まつりの開催

- ・ R7年8月22日(土)昨年度から始まった夏越祭りは、今年度は盆踊りを加えた祭りにできた。出店や出し物などは大いに賑わった。
- ・ 真夏日が続く中、熱さ対策など心配事が多かったが、入場者が1500名と皆さんに喜ばれた祭りとなった。

・ 第3回福田まつり花火大会開催

- ・ R7年11月8日(土)に開催された花火大会では、募金活動に苦労したが、資金も集まり約4000名の入場者・見学者で大いに盛り上がりました。夏越祭りから時間があまりなかったが、無事終了することができて感謝しています。
- ・ **若者の力結集すれば何事できることが証明された。嬉しい限りです。**



12

福田地区津波避難訓練

きっかけ

- 自然環境防災部会の事業の計画を立てるときに、津波が来たら避難しなくてはならないが、海の近くの福田認定こども園の子どもたちはどのように避難するのか疑問がわいてきた。そこでこども園に津波避難訓練をもちかけ実施計画をたてたところ、福田中学校が、文科省の学校安全総合支援事業(防災教育)の指定を受けたことで、中学校とも連携を取り避難訓練を実施することとなった。

目的

- 福田に生活しているみなさんが津波による人名被害にあわないために、避難訓練を通して、住民、学校、こども園がつながりより安全なルートで避難ができるように体験し、想定される津波の状況で、避難ルートの検討をすることを目的とした。



合同津波避難訓練実施

福田認定こども園と福田中学全校生徒

- 令和7年11月4日(火)今回の津波は到達するまでは少し時間がある想定で実施した。まず津波警報がでたら、福田認定こども園の子どもたちは近くの公園(本町公園)にまで逃げ、中学校の生徒が本町公園を通過するときに手をつないで避難場所(福田天満宮)まで避難する訓練を実施した。
- 当日は、園児たちが生徒と手をつなぐと泣いたりだだをこねたりしないか心配したが、事前に生徒との交流を実施していたので、スムーズな避難ができた。今回の避難訓練で地域の人との訓練は実施しなかったが、津波到達が早いことも考えられるので、次回は園に近い住民も巻き込んだ避難訓練を実施していきたい。避難ルートも小学校住民が同じになるようだったら、混雑するので考えていきたい。



協議会を設立したことで良くなったこと

いままでは地域の各団体がそれぞれに事業を行い、団体同士の繋がりが薄く連携が取れていなかったが、協議会を設立したことで個々の団体が会員となり、お互いに話し合いの場に参加することで、協力し合いそれぞれの事業を協議会で話し合い実施していくことで、お互いに助け合い繋がりが出来てきた。

また、各事業を進めていく中でそれぞれの立場や経験のもと意見を出し合い話し合っていく事で、いままで単独で事業をしていくよりも内容が充実し、さらに横の繋がりがも出てきた。

協議会設立を進めていく中での課題

協議会それぞれの活動は、地域住民の親睦や防災・防犯・福祉などの安全・安心な地域づくりに大変重要な役割を担っています。一方で、お祭りや各種行事、会議など熱さ対策など熱中症については、引き続き十分な配慮を行う必要があり、実施に当たっては中止や延期等も視野に入れた判断が求められる。

各部会の事業は今年度は新型コロナウイルス感染症が落ち着き、今までできなかった行事が開催出来るようになってきましたが、若者の行事離れが深刻になってきた。

またコロナ過の中で、人と人の接触が制限され住民同士の交流が途絶えていた。今後一人暮らしの高齢者等が外に出る機会を増やして、交流の場を熱中症対策をしながら作っていかなければならない。



今年度、熱中症対策で工夫したこと

会議・イベントでの工夫

- ・各会議等開催時にエアコンを大いに利用し温度管理をしながらしてもらっている
- ・会議参加時には、塩飴などを準備している。
- ・イベント開催時は、事前に熱中症アラートを聞き危険である場合は中止も考えた行事の開催をした。
- ・会場には熱中症アラート計測器を配置し、またミストの散布、1時間ごとに休憩の放送を行った。
- ・実行委員には、氷の準備と、塩飴、飲み物と休憩場所を作った。ファンベスト着用も実施した(全員分揃えることができなかったのが、反省点です)

運営面

- ・会員向けに、会の運営について意見募集、アンケートの実施
- ・役員間でLINEグループを作り、連絡を取り合う、またはメールでの連絡

その他

- ・気象庁からの熱中症アラート予報に対して、役員・実行委員内で共有することを実施した。
- (会議では必ず、情報を実行委員に流して、状況の確認を共有した)

17

今後の展望

・今後の展望

少子高齢化が全国的進む中、長崎市でも例外ではなく、特に長崎市の高齢化率は全国でも最悪のペースで進んでいます。
福田地区でも、各自治会の担い手がいない、若者が自治会役員になってくれない、など少子高齢化が進んでおり行事などの開催もできなくなってきています。行事などが無くなると一人暮らし高齢者は家を出る機会がすくなくなり、誰にも会わない時間が増加してきます。
そうなると、各地区の住民によるゴミ出し支援や見守り活動は重要な支援策とされます。
また今後協議会としても後継者探しが重要になり、運営していく上でも若い人の協力が必須です、そのためにも若い人が興味をわく事業を考え、共に運営していく事が求められる。

18

連絡先

- ・ 団体名
福田小学校区コミュニティ連絡協議会
- ・ 住所
長崎市大浜町942-19
- ・ 電話番号
090-8398-4433
- ・ メールアドレス
trm2001@ngs2.cncm.ne.jp

19

ご視聴ありがとうございました

- ・ 福田小学校区コミュニティ連絡協議会

20